



学校だより

和歌山市立雑賀崎小学校
令和7年度 2月号

寒さの中にも、春の兆し ~150年間の歩みと共に~

立春を迎え、暦の上では春となりましたが、まだ寒い日が続いています。朝夕の冷え込みの中でも、子供たちは元気に登校し、教室ではそれぞれの学びに一生懸命取り組んでいます。その姿から、日々の積み重ねの大切さを改めて感じています。

さて、今年は2月4日が「立春」です。二十四節気の最初の節氣で、旧暦では新しい年の始まりを意味していました。暦の上では春の始まりですが、これからが一年で最も寒い時期とも言われます。それでも「立春」という言葉には、春が少しずつ近づいていることを感じさせる力があります。正門前の桜の木も、まだ芽は固いものの、春に向けて静かに準備を進めています。

『学校だより 令和7年度1月号』でお伝えしましたように、雑賀崎小学校は今年(令和8年)、創立150周年という大きな節目を迎える予定です。この一年は、子供たちにとって、学校の歴史や地域の良さに触れ、自分たちの学校に親しみと誇りをもつ大切な機会となります。日々の学習や行事を通して、「この雑賀崎小学校で学んでいることの意味」を、それぞれに感じ取ってくれることを願っています。

雑賀崎は、海と山に囲まれ、人々の暮らしが長く受け継がれてきた町です。地域の方々の温かな見守りや、世代を超えた関わりの中で、子供たちは多くのことを学びながら成長しています。学校もまた、この歴史ある地域の一員として、これからも子供たちの育ちを大切に支えていきたいと考えています。

早いもので、今年度も残り2か月となりました。子供たちは学習面でも生活面でも大きく成長しています。一日一日を大切に過ごし、自信をもって次の学年へとつなげてほしいと願っています。寒い日が続きますが、ご家庭でも体調管理にご留意ください。今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。 (学校長 谷口 佳都司)

◎花王工場見学 [1/20(火)]

